令和7年度

宍喰小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

児童	基礎・基本を身に付け、学習したことを活用し、豊かに表現できる。 （既習の定着・活用する力・説明する力）
教師	児童の「やってみたい！」「なぜだろう？」を大切にした授業づくり （発問の工夫・対話による協働的な学び・ICT を活用した個別最適な学び）

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 鎌田　崇佐	委員　校長：新居　正司　　教頭：喜多　将記 教務主任：山本　千紘 研修主任：鎌田　崇佐 特別支援教育コーディネーター：米口　尋世

校長

新居　正司

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

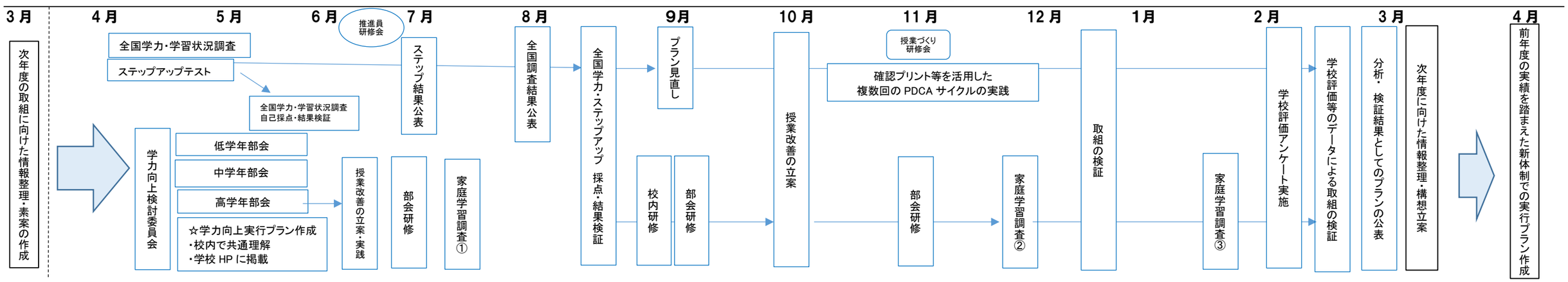
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○その時に学習している単元の学習内容については、十分理解できている児童が多い。 ●友達の意見や考えを聞く力が十分身に付いていない児童がいる。	・目の前のテストのためだけではなく、これまで学習した内容を繰り返し取り組んでいくことで、既習内容の定着を図る。 ・学年相応の語彙を習得できる。 ・発達段階に応じて、聞く姿勢や聞き方を身に付けていく。	・デジタル学習ソフト（キュビナ）やプリント学習等、個別最適な方法で繰り返し取り組んでいくことで、学習内容の定着を図る。 ・教師による読み聞かせや童謡等の色々な本や音楽に親しむことで、語彙力の向上を図る。 ・毎日の「読書タイム」を活用し、発達段階に応じた本を選び、活字を読む習慣の定着を図る。 ・事前に聞く視点を提示したり、静かになるまで待つなどの児童が聞きやすい環境を整えたりする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、説明したりすることができる児童が多い。 ●根拠を持って、自分の考えを説明することに苦手意識を持っている児童が少なからずいる。 ●身に付けた知識・技能をどう活用したらよいか困っている児童が多い。	・どの教科においても、根拠を持って自分の考えを発表し、相手に伝わるように話すことができる。 ・児童自ら身に付けた知識・技能を活用し、問題を解決しようとする。	・根拠を問う発問や児童と児童をつなぐ発問等、発問の工夫をしていく。 ・カリキュラムマネジメントに取り組み、児童自ら身に付けた知識・技能を活用しようとする場面を計画していく。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○素直な児童が多く、与えられた課題に一生懸命取り組むことができる。 ●新しい課題に直面した時に、自信がなく（躊躇してしまい）、臨機応変に動くことが難しい児童がいる。	・間違いや失敗を恐れず、積極的に発信し、自ら進んでチャレンジすることができる。 ・難しい課題に対しても、試行錯誤しながら、粘り強く取り組むことができる。	・学級会を中心に、話し合い方を身に付けたり、自己決定の場をつくったりすることで、自分たちの力で達成できたという成功体験の場を設定する。 ・教師は「見守り役」に徹し、できたことを価値付けし、児童一人一人の自己肯定感を上げていく。			

令和7年度　学力向上ロードマップ